

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21330127

研究課題名（和文）

戦後日本における公共圏としての論壇に関するメディア史的研究

研究課題名（英文）

Historical research on the RONDAN as a public sphere in Postwar Japan

研究代表者

竹内 洋 (TAKEUCHI YOU)

関西大学・人間健康学部・教授

研究者番号：70067677

研究成果の概要（和文）：

総合雑誌を中心とする論壇の「衰退」や、インターネットを中心とする新しい論壇の「誕生」といった現象の背後で進行してきたメディア史的な変動の過程について、中長期的なスパンで実証的に分析した。論壇の公共圏の成立の重要な契機として、進歩的文化人による「革新幻想」公共圏の形成があったことを示し、さらに論壇の公共圏の変容を解明するために、様々なタイプの雑誌メディアの変容過程について調査している。

研究成果の概要（英文）：

We analyzed positively about the process of a historical change in mid- and long-term which have worked in parallel to the phenomena, such as a "decline" of the RONDAN such as general magazines, and "birth" of the new RONDAN on internet technologies. There was formation of the "reformist fantasy" by an intellectual with progressive ideas as an important opportunity of formation of RONDAN. Furthermore, in order to solve the change of RONDAN, we have investigated the change process of magazine media.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,900,000	1,170,000	5,070,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：論壇、雑誌、メディア史

1. 研究開始当初の背景

総合雑誌を中心とする論壇の公共圏は戦後の復興期から 1960 年代の黄金期を経て、現在は衰退期を迎えている。1959 年に創刊された『朝日ジャーナル』が 1992 年に休刊し、その後継誌として 1995 年に創刊された『論壇』も 2008 年に休刊になったことに象

徴されるように、衰退は左派・リベラル系に著しい。しかしそれは左派・リベラル系雑誌が取り上げてきた問題が解消されたことを意味しない。例えばニート・フリーター問題をきっかけに「ロストジェネレーション」（ロスジェネ：就職氷河期世代と重なる）の「格差・貧困」問題を核とする新しい論壇的公共

圏が形成されつつあるように見えるが、必ずしも総合雑誌ではなくインターネットの匿名掲示板や個人ブログを媒体として展開されているのが特徴的である。

これは論壇的公共圏の衰退なのか。それとも新しい論壇的公共圏の誕生なのか。

この問題に取り組むための前提的作業として、代表者の竹内洋はすでに①論壇的公共圏の支持基盤の変容（『教養主義』中公新書、2003）、および②論壇的公共圏の代表的知識人の位置取り戦略（『丸山眞男の時代』中公新書、2005）という2つの観点から歴史社会学的なアプローチを試みてきた。また当時進行中だった研究として、③論壇的公共圏における〈保守・革新〉対抗軸の形成と革新陣営で展開されたヘゲモニー闘争（「革新幻想の戦後史」『諸君！』2007.12～連載）、および④論壇的公共圏における実務知識人の台頭（日本経済研究奨励財団研究助成 2007年度「戦後日本における実務知識人の台頭と言論空間の変容」代表：竹内洋）に関する知識社会学的分析があった。

上に挙げた④は、黄金期に見えた1960年代の論壇的公共圏に、「衰退」とは異なるレベルでの変化（それまでとは異質な論壇的公共圏の誕生）を認めるものである。例えば、戦前から戦後のある時期までは世論形成にかかわる知識人は大学教授という「論壇知識人」やジャーナリストが中心であったが、ある時期から官庁や企業のエコノミスト、官僚といった「実務知識人」が総合雑誌の執筆者として登場するようになった。彼らは経済動向などの専門領域にとどまらず、日本社会のあるべき方向などについても論じ始めた（天谷直弘や堺屋太一など）。『中央公論』に経営問題特集号が出された1962年前後から新しいオピニオンリーダーとして頻りに登場するようになり、1977年にPHP出版社から創刊された『Voice』は実務知識人の牙城となった。彼ら新しい知識人が輪郭をもった社会的類型として誕生したのはなぜか。この課題意識は、①～③を補完しつつも、1970年代以降も引き続き進行した「衰退」とは異なるレベルでの変化の解明につながる。

このような論壇的公共圏の構成メンバーの変化は、実務知識人の登場だけではない。論壇知識人内部でも政治学や経済学などの伝統的な専門分野に社会学や心理学といった新興分野が参入してくる。他方、1970年代末には「論壇の崩壊」と題する特集を組む雑誌もあった（『現代の眼』1979年8月号）。このときから衰退と誕生は混同されてきたのだ。両者をともに矛盾なく説明する実証分析が必要とされる所以である。

さらに研究分担者の佐藤卓己は、総合雑誌とは異なる新型メディアの教養的機能の可能性（『テレビの教養』NTT出版、2008）や、

論壇的公共圏の輿論（public opinion）と外部環境としての世論（popular sentiments）との関係変容（『輿論と世論』新潮選書、2008）といったメディア学的テーマで成果をまとめたばかりであり、これもまた「衰退」とは異なるレベルでの変化を分析する重要な手掛かりとなった。

2. 研究の目的

戦後日本における論壇的公共圏（総合雑誌に依拠した世論形成の母体）の成立と変容の過程とその要因を実証的かつ内面的に解明することである。総合雑誌を中心とする論壇的公共圏の「衰退」や、インターネットの匿名掲示板や個人ブログを媒体とする新しい論壇的公共圏の「誕生」といった現象は見えやすいが、その背後で進行してきた論壇的公共圏の動態のメカニズムについて中長期的なスパンで実証的に分析する作業が十分にされてきたとはいえない。本研究は、戦後60年間にわたる分野横断的な総合雑誌のデータベース化に基づく知識社会学的・メディア史的・コミュニケーション論的な実証分析によって、それを試みる。

3. 研究の方法

本研究では、戦後60年間にわたる論壇的公共圏の変化とその要因を分析する。それにより、1970年代以降の総合雑誌の「衰退」、2000年代の新しい論壇の「誕生」と括られる現象が、その背後で進行してきた論壇的公共圏の内部システムの組み換えと外部環境との関係変容に関する一貫した分析枠組みのもとで、捉え直される。その際、P・ブルデューの場の理論をジャーナリズムの分析に応用したRodney Benson and Eric Neveu, Bourdieu and The Journalistic Field, Polity Press 2005.などを参照しつつ、戦後日本の論壇的公共圏への適用可能性も検討する。

そのための最も基礎的な作業として、戦後の論壇的公共圏の舞台となった主要な総合雑誌（中央公論・文藝春秋・世界・朝日ジャーナル・展望・潮・自由・エコノミスト・現代の眼・現代の理論・諸君！・正論・Voice・Will・論座など）に関するデータベースを作成する。これを補完する作業として、総合雑誌の編集長（元・現）に対するインタビュー調査をおこなう。

論壇的公共圏の変化とその要因分析の具体的な作業は、以下のように分割される：

①論壇的公共圏の構成メンバーの変容

- ・誰がどのように論壇知識人になったか？——執筆者の属性（性別・生年・所属・専門）、供給源とリクルート経路。実務知識人の登場。
- ・誰がどのような論壇誌を読んだか？——発行部数、読者層。

- ・ 論壇的公共圏の拡大と棲み分け
- ② 論壇的公共圏のジェンダー問題
 - ・ 女性専用論壇（『婦人公論』など）
- ③ 論壇的公共圏の世代問題
 - ・ 戦前と戦後の断絶と連続、2000年代「ロストジェネレーション」世代
- ④ 論壇的公共圏における輿論と世論のせめぎあい
- ⑤ 論壇的公共圏の社会的機能の変容と分化
 - ・ 論壇的コミュニケーションの変容
 - ・ 他のメディアの世論形成機能への言及（テレビ・インターネット）
 - ・ インターネットは論壇的機能を担うか？（匿名掲示板、個人ブログ）

4. 研究成果

1年目（2009）は、戦後論壇的公共圏の全体像を把握するための基礎的作業として、主要な総合雑誌の目次の複写と執筆者情報の調査をおこないデータベース化を進めた。それと並行して、文献調査、および先行研究の収集整理をおこなった。他方、個別の知識人やジャーナリストに着目して事例研究に取り掛かった。

具体的な成果としては、知識人論の歴史社会学の観点から竹内洋が「革新幻想の戦後史」を『諸君！』（2009年6月号まで）および『正論』（2010年3月号から）に連載した。またメディア知識人としての清水幾太郎論の試みも発表した（「清水幾太郎——正系インテリに抗った論壇の田中角栄」『諸君！』2009年6月号、「メディア知識人の運命」『中央公論』2010年4月号）。このほか、佐藤卓己がメディア史の観点からジャーナリスト野依秀市を取り上げて「天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市」を『考える人』に連載した（第一回 2009年春号～第五回 2010年春号）。

2年目（2010）から研究会合を開催し共同討議を始めた。2010年8月の第1回会合では竹内が総合雑誌の受容史を概観しつつ全体の方針を決めた。また研究協力者として歴史社会学やメディア史を専攻する若手研究者に参加してもらうことになった。2011年1月の第2回会合では研究協力者の大澤聡氏（学振特別研究員）が戦前の論壇時評について、また分担者の稲垣恭子氏（京大）が戦後女性文化人の系譜についてそれぞれ報告し、共同討議を行い、総合雑誌の分担を決めた。

具体的な成果としては、竹内洋は前年度から引き続き、戦後の進歩的文化人によって形成された「革新幻想」の公共圏に関する研究成果を「続・革新幻想の戦後史」として雑誌『正論』にて連載し、またそれと並行して、多様な媒体で活躍する「メディア知識人」の先駆となった清水幾太郎の軌跡を辿る「メディア知識人の運命」を中央公論 Web ページに

て連載した。

3年目（2011）は、共同研究の成果まとめに向けて各自の研究を進めた。2011年6月の第3回会合にて佐藤卓己「岩波文化と雑誌メディア」、井上義和「『キング』の時代から『文藝春秋』の時代へ」の2本の報告を受けて、雑誌のメディア論的分析方法について討議を行った。同年10月の第4回会合では白戸健一郎「国民雑誌の輿論指導——『諸君！』（1969—2009）における政治主義の光芒」、松永智子「マジメ週刊誌『Newsweek 日本版』の短い春—TVとネットのあいだ—」の2本の報告を受けて、1980年代以降に新たに要請されてくる雑誌メディアの社会的機能について討議を行った。同年12月の第5回会合では富田英典「ネット論壇に関する一考察」、長崎励朗「『朝日ジャーナル』—若者論壇における台風の目？」、赤上裕幸「未来学的論壇のゆくえ—『放送朝日』『調査情報』を中心に」の3本の報告を受けて、2000年代のネット論壇の動向、1960～80年代の若者論壇および1960年代の「新京都学派」について討議を行った。また産経新聞社『正論』編集部の上島嘉郎氏に保守系論壇誌の変容と現状について講演していただいた。また出版社の編集担当者を交えて、成果物の編集方針と刊行スケジュールについて話し合った。

具体的な成果としては、竹内洋は雑誌『正論』への連載「続・革新幻想の戦後史」を完結させ、『革新幻想の戦後史』として中央公論新社から刊行した（2011年10月）。「メディア知識人の運命」は中央公論 Web ページにて連載中である。

研究期間終了後も引き続き、論壇的公共圏変容の過程を明らかにするために様々なタイプの雑誌の調査分析に取り掛かっており、その成果は2012年中にとりまとめ、2013年に刊行する予定である。構成は以下の通り。

書名：『戦後日本の論壇雑誌—そのメディア史的研究』（仮）

編者：竹内洋・稲垣恭子・佐藤卓己

序論・竹内洋

井上義和・・・『文藝春秋』（～現代、企業文化・女性読者）『諸君！』（80～90年代、保守論壇）

佐藤卓己・・・『世界』（50年代後半～60年代前半、マイナー左派）

竹内洋・・・『中央公論』（60年代、→実務系知識人）

佐藤八寿子（立命館大学非常勤講師他）・・・『暮らしの手帖』（～60年代、生活論壇）

大澤聡（学振）・・・『現代の眼』『流動』（70年代、マイナー右派）

長崎励朗（京都文教大学講師）・・・『朝日ジャーナル』（70～80年代、新人類公共圏）

稲垣恭子（京都大学教授）・・・『婦人公論』
（80年、～→女性論壇）

赤上裕幸（大阪国際大学講師）・・・『放送朝
日』（～60年代、戦後京都学派）

松永智子（学振）・・・『ニューズウィーク日
本版』（～90年代、亜国際派）

富田英典・・・ネット系／サブカル系論壇（00
年代）

おわりに・佐藤卓己

*資料編：Ⅰ論壇系雑誌編集長インタビュー
／Ⅱ論壇系雑誌年表／Ⅲ論壇系雑誌各年代
実売（発行）部数資料等 20～30 頁程度のポリ
ューム

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線）

〔雑誌論文〕（計16件）

①竹内 洋「続・革新幻想の戦後史（最終回）
大衆社会の構造転換」『正論』、査読なし、472
号、2011年、272～281頁

②竹内 洋「続・革新幻想の戦後史（第16回）
知識人の変容と解体（下）」『正論』、査読
なし、471号、2011年、244～253頁

③竹内 洋「続・革新幻想の戦後史（第15
回）知識人の変容と解体（上）」『正論』、査
読なし、470号、2011年、248～257頁

〔図書〕（計1件）

①竹内 洋、中央公論新社、革新幻想の戦後
史、2011年、546頁

〔その他〕

ホームページ等

竹内洋「メディア知識人の運命」中央公論新
社 <http://www.chuko.co.jp/intellect/>（連
載中）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 洋 (TAKEUCHI YO)

関西大学・人間健康学部・教授

研究者番号：70067677

(2) 研究分担者

富田 英典 (TOMITA HIDENORI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：50221437

稲垣 恭子 (INAGAKI KYOKO)

京都大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：40159934

佐藤 卓己 (SATO TAKUMI)

京都大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：80211944

井上 義和 (INOUE YOSHIKAZU)

関西国際大学・人間科学部・准教授

研究者番号：10324592